

# 令和元年（2019年）度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

令和 2 年 8 月  
北海道胆振総合振興局

## 【概要】

令和元年（2019年）度の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は820,057人泊（前年度比81.4%）で、平成30年度と比較して187,030人泊の減少となり、2年連続で減少しました。

減少の要因は、1月下旬以降、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の世界的なまん延により、多くの国や地域で入国や渡航の制限が行われ、国際線の減便・運休の拡大、3月下旬から道内を発着する国際線の就航がゼロになったことなどが考えられます。また、日韓情勢により韓国が半減したことも影響しています。

一方で、9月に札幌で開催されたラグビーワールドカップ2019の出場国が含まれる欧米豪、空港路線の新規就航や増便のあったタイなどは堅調な伸びとなりました。また、中国は、管内の構成比が約3割となり、台湾を抜いて管内1位となりました。

## 【国・地域別の状況】（資料1）

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、中国が238,820人泊で最も多く全体の29.1%を占めています。次に台湾（226,404人泊）、韓国（95,712人泊）、香港（65,328人泊）、タイ（33,658人泊）となっています。

上位5か国まですべてアジア圏の国・地域であり、【資料1】の「その他」に含まれるマレーシア（27,457人泊）、シンガポール（30,722人泊）、インドネシア（7,499人泊）、フィリピン（1,684人泊）、ベトナム（490人泊）、インド（271人泊）を含めると、アジア圏からの観光客が全体のおよそ88.8%を占めています。

上位5カ国のうち、中国（前年度比89.6%）は、大連を含む4路線の開設などにより、5月から9ヶ月連続で前年同月を上回りました。一方で、感染症の拡大を受け、1月末から中国で団体旅行等の販売が禁止されたことにより、路線の運休・減便が拡大し、2月・3月は大幅に減少しました。

台湾（同80.0%）は、平成28年度から前年を下回る状況が続いています。要因として、航空路線の一時的な運休・減便、日本各地への路線拡大による旅行先の分散化、感染症拡大の影響などが考えられます。

韓国（同48.1%）は、日韓情勢による訪日旅行控えや空港路線の運休・減便、感染症拡大などにより、前年を大きく下回りました。

タイ（同100.2%）は、タイで人気が高い冬の北海道の観光需要に合わせて10月～3月まで新千歳～バンコク線が増便されました。感染症拡大の影響などで3月は大幅に減少しましたが、10月～2月までの5ヶ月間の合計は前年同期より4,400人多く、5ヶ月連続で前年同月を上回りました。

その他（同110.0%）では、ラグビーワールドカップ2019の開催、12月中旬からフィンランド航空とカンタス航空が就航したことなどにより欧米豪が大幅に増加し、前年度を6,598人上回り、過去最高の25,341人となりました。

参考として、平成10年度からの訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（参考資料1）と平成29年度からの訪日外国人宿泊者数（延べ数）国・地域別の推移（参考資料2）を添付しています。

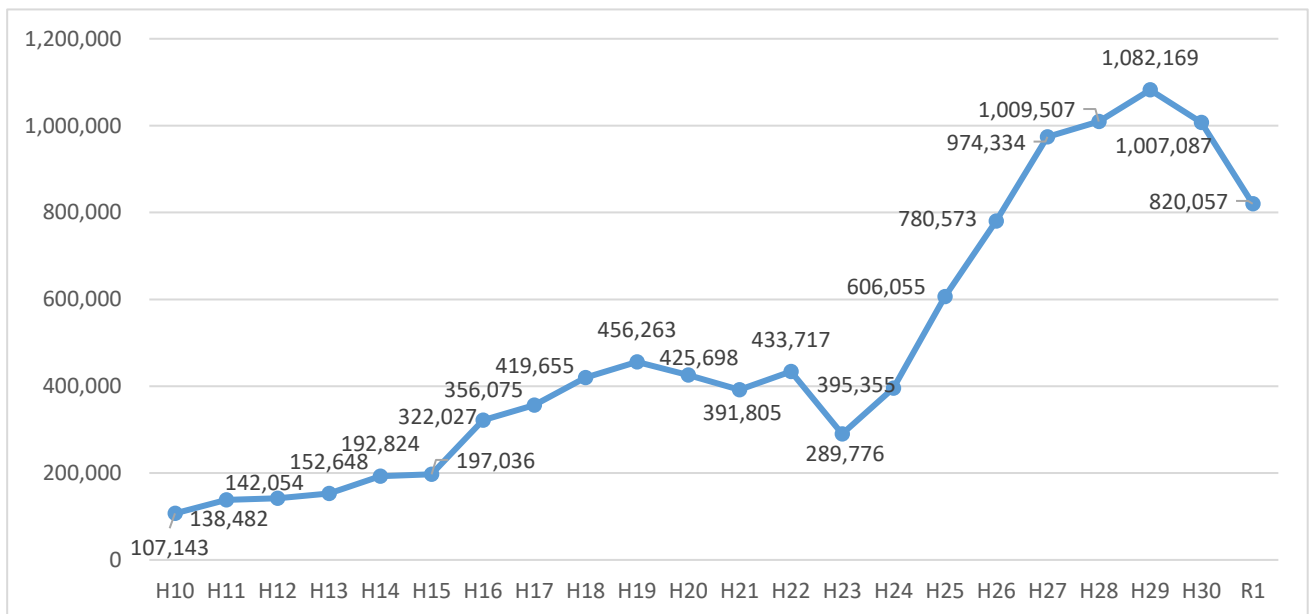
【資料1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人泊）

順位	国・地域	令和元年（2019年）度宿泊者数 （延べ数）		前年度比	前年度からの 増減数
			構成比		
1	中国	238,820	29.1%	89.6%	▲27,656
2	台湾	226,404	27.6%	80.0%	▲56,774
3	韓国	95,712	11.7%	48.1%	▲103,189
4	香港	65,328	8.0%	82.3%	▲14,044
5	タイ	33,658	4.1%	100.2%	74
	その他	160,135	19.5%	110.0%	14,559
	合計	820,057	100%	81.4%	▲187,030

【参考資料1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人泊）



【参考資料2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）国・地域別の推移

（単位：人泊）

